**第5回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成28年2月1日（月）15:00～17:00

場所：泉佐野丘陵緑地パークセンター

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

大輪会事務局　大西　弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆傍聴者　1名

◆概要

1. 現地確認（棚田跡地、向井池周遊路、向井池北側エリア） 14:00～

2. 協議案件 7件　 15:15〜

 　　①持込み型プログラムについて

　　②向井池東側エリアについて

　　③向井池北側エリアの修景について

　　④公園の評価について

　　⑤平成28年度運営審議会開催計画について

　　⑥平成28年度工事計画について

　　⑦平成28年年度パーククラブ活動計画について

3. 報告案件　3件　　 15:50〜16:50

①プログラム報告

　　②企業の森活動について

　　③平成27年度工事について

4. 閉会　　　　　　17：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

**大西委員**

・大阪府立大学の学生が行った「ワクワクウォーク」に参加したが、大変楽しむことができた。松井代表が日根野駅から帯同してくださり、大学生とともに地域を紹介してくださった。

**下村委員**

・公園利用者よりアンケートをとっていると思うが、イベントに関するアンケートは集めているのか。

**事務局**

・来園者に記入していただくアンケートについては、開園時に大阪府立大学の武田先生と協議の上で作成した。イベントでもその書式とほぼ同じ項目ではあるが、アンケートを継続して回収している。

・アンケートをとっているのは来園者のみであり、イベント主催者のアンケートはとっていない。

**増田会長**

・棚田の土壌改良は行われるのか。

**事務局**

・棚田周辺で枯死している樹木を植え替える予定であり、その工事にあわせて土壌改良を行う予定である。

**増田会長**

・郷の棚田プログラムは申し込みがなかった場合、追加募集は行われるのか。

**事務局**

・現状では追加募集の予定はない。今回からは一年を通じたものだけでなく数ヶ月単位でも受け付けることにしたので、その状況もみて判断していきたい。

**増田会長**

・例えば棚田全ての面に対して応募が埋まらなかった場合には、管理者としてどのような使い方を想定しているか。コスモス畑にするなどの計画があるのか。郷の棚田は公園の入口でもあるので、埋まらない面の戦略的な活用方法を検討するとよい。

**事務局**

・昨年も植えたヒマワリやソバが考えられる。職員の管理体制を考慮した上で、できることはやりたいと考えている。

・風景づくりとしてヒガンバナの育成にも取り組みたいと考えている。

＜**協議案件2：向井池東側エリアについて**＞

事務局より向井池東側エリアについて説明。

**増田会長**

・眺望の整備計画を立てる上で、事務局が悩んでいることはないか。

**事務局**

・大阪工業技術専門学校（OCT）から卒業制作の作品を寄贈していただく予定だが、作品が大きすぎるため設置場所を悩んでいる。OCTと相談して決定したいと考えている。

**増田会長**

・作品は木製のため初めは見栄えがよいが、風化すると目立たなくなる。森の中から垣間見えるような場所に設置する作品は、カラーリングするとよいかもしれない。その場合はワークショップ等で、作成してくださったOCTの生徒にも参加してもらい、カラーリングを楽しむイベントを行ってもよい。作品がむき出しになる場合は、カラーリングしなくても構わない。

**嘉名委員**

・向井池東側整備の第一歩として、様々なポイントから眺望できるスポットCの整備から始めるとよい。スポットCの整備を通じて、スポットを整備するノウハウを蓄積するとよい。

**増田会長**

・今回の資料には記載されていないが、スポットCには水辺のデッキからも眺望することができる。一番目に着手するポイントとしては効果的である。資料には、水辺のデッキからの矢印も加えておくとよい。

・スポットCの整備と同時に、山側にあるコジイをシンボルツリーとして周辺を整備するとよい。このエリアは企業の森活動の予定地だが、シンボルツリーは活動の目標となるだろう。このように、やりがいのある目標を設定すべきである。

**前中委員**

・コジイだが、対岸から見た時に見えるのか見えないのか、確認しておくべきである。むき出しにならないよう、参加者同士が話し合いながら整備を進めるとよい。

**増田会長**

・対岸からコジイがどのように見るのか、樹高計を活用するとわかりやすい。

**下村委員**

・企業の森活動を進めていく上で、どのようなお膳立てをしていくとよいのか、パーククラブとも相談しながら検討するとよい。レクリエーションのような内容も含めて、進行方法について作戦を練り、大輪会と大阪府、パーククラブが三者で進めるシナリオを検討するとよい。

**増田会長**

・平成28年度のパーククラブの活動計画を検討する際に、企業の森活動に対してどのような参画をするのか、あるいは棚田半島の整備戦略をパーククラブの活動の中でどのように位置づけるのか、検討するとよい。

・企業の森活動においても、コジイの見え方などは検討しておくとよい。例えばスポットCにベンチを置くことを目標として決めるなど、早めに目標設定をした上でプログラムを組むとよい。

・スポットCと対岸とのやりとりをする際には、無線を活用すると楽しくなるかもしれない。

＜**協議案件3：向井池北側エリアの修景について**＞

事務局より向井池北側エリアの修景について説明。

**前中委員**

・様々な場所からドングリを移植するとなると、様々なドングリが混ざることを避けることはできない。「ドングリの森」はそのような森でよいと、あらかじめ確認しておく必要がある。それでは生態的に有意義な森にはならないが、それが悪いということではない。森の認識を明確にしておき、正しい説明を来園者に行わなければならない。

・植樹後にネームプレートをつけるという活動だが、ネームプレートをつけた樹がうまく育たないことや、管理作業として行われる草刈りの際に誤って刈られてしまう可能性もある。子ども達も参加する活動なので、教育的配慮を含めてよく検討しなければならない。

**下村委員**

・公園の方針として、「持ち込まない・持ち出さない」が原則である。子ども達に苗を持って帰ってもらい、育成した苗を再度植える、という流れであれば結果的にもとに戻るので問題ないのかもしれないが、確認しておく必要がある。

・子ども達に持ち帰ってもらう苗は、均一してコナラにするという方法もある。または学校ごとで種類を分け、種類ごとにゾーンを設けて植樹すると、ある程度の樹林層を作ることができるかもしれない。混在させる場合も、実生の種類をある程度見分けながら植える方法もある。ドングリを集めてドングリバンクのようなものを作り、それをもう一度配布するというようなシステムも考えられる。

**前中委員**

・現実的に、子ども達が育て植える苗を全てコントロールすることは不可能である。その認識を持った上で活動に取り組んでいただきたい。目標を難しく考えると何もできなくなる可能性があるため、このエリアは色んな結果になっても構わない場所であると位置づけておくことが大切である。

**弘本委員**

・1回きりの植樹祭で終わりということではなく、何度も繰り返し訪れていただき、植物を育てる難しさも体験してもらえるような仕掛けを考えてもらいたい。

**増田会長**

・3ヶ月に1回ほど写真を撮ってホームページに掲載し、植えに来たご家庭が様子を見ることができるようにしておけば、管理側の負担も少ないかもしれない。

**下村委員**

・1度に全域を植えるのではなく、5年間程度の期間に毎年少しずつ植えていくような、「つくり続ける」という要素もあるとよい。

**西台委員**

・里海公園では、遠足に来た子供達に植樹をしてもらい、植樹した樹木の成長を観察し、随時足を運んでもらうように積極的に声がけを行っている。

**増田会長**

・パーククラブの活動としても、圃場で次世代の樹木を育てていくことは重要である。一方で子ども向けとしては、まずは何度か現場に来ていただけるような仕組みを検討するとよい。整備の方向性は問題ないので、実施設計に取り組んでもらったらよい。

**事務局**

・向井池北側エリアの修景について、植栽は除き、石積みやパークセンター北側の土留めなどは早急に発注し、来年度早々に工事着手する予定である。

＜**協議案件4：公園の評価について**＞

事務局より公園の評価について説明。

**下中委員**

・今回書かれている内容は自己評価ではなく実績値といえる。これに加えて、例えば600を想定していた数値が700になった、小学校の誘致を目指していたのが高校にまで波及したなど、プラスアルファとしてがんばった点がわかるよう明記しておくとよい。内部評価をAからSに上げる努力をしている、ということをアピールすることも大切である。

**増田会長**

・パーククラブは毎年、活動計画と目標を設定しているが、それと同様に公園管理者としても、平成28年度の目標と計画を具体的に記し、年度末にその成果を示さなければならない。

・景観と環境という分け方は妥当なのか。景観と環境というよりは、大きくは施設管理と植物管理に分かれるだろう。植生はすぐに変化するものではないが、例えばササユリ管理の目標や植物管理の方法などを示しておくとよいかもしれない。

**前中委員**

・植生調査の結果は資料として蓄積し、必要な人が必要なデータを参照できるように準備しておく必要がある。資料の体裁は重要ではなく、メモでも構わないので情報が蓄積されていることが重要である。

**大西委員**

・企業の森活動の現地体験会での竹切り体験では、時間が限られていたため一部の人だけしか竹を切ることができなかった。全員が参加できるようなプログラムを組んでいただきたい。

・今回の審議会で話題になっているように、参加者が企業の森活動に意欲的に取りくむことができる具体的な目標を設定していただきたい。

**西台委員**

・公園の認知度について。阪南市に住んでいても、里海公園のことは知らない人が多くいる。情報がなかなか入ってこないと言われてしまい、近くに住んでいるのにどうしてなのか、私たちも頭を悩ませている。これは泉佐野丘陵緑地と同じ悩みである。

**真瀬委員**

・泉佐野市の広報誌でイベントを告知していただくことで、公園を広報していただいている。その様子から、もっと大きなインパクトがほしいと考えている。例えば、竹を全面的に出していくなど。全体的に楽しく活動に取り組まれているという印象はあるのだが、特徴に欠けているように見える。

・12月よりコミュニティバスを日曜日のみ運行しているが、現在の実績は約700名弱であり、数字としてはもっと伸ばさなければならない。広報にさらに力を入れていただくほか、企業の森活動で訪れる方々やパークレンジャーにもバスを活用していただきたい。

**増田会長**

・自治会の会合などで公園を紹介する機会をいただくことや、小学校の校長会の時に説明する機会をいただくこと、あるいは小中学校へ出向いて出前講座として公園をPRさせていただくなど、公園で待っているだけではなく積極的に売り込んでいく姿勢も必要である。

**弘本委員**

・開園後も少しずつつくり続けていることを実績として整理していくことも重要であるが、どのような層の人に広報が届いていないのかを理解することも重要である。例えば、高齢の方や身体が不自由な方にも公園に来ていただけるような工夫が考えられる。あるいは、最近では森の保育園活動が増えていることから、幼い子どもたちはどのように公園を利用することができるのかなど、まだ繋がっていない層の人たちにも広く利用していただけるようになるためにはどのような公園であるべきかを検討していただきたい。いきなり全てに着手することは難しいが、まずは事業を評価する視点として、利用者の層を明確にするという点を盛り込んでいただきたい。

・泉佐野市との連携ももちろん重要であるが、他の地域とも連携を図ることも必要である。

**増田会長**

・評価に関して重要なことは、年度計画に対する成果を評価するということと、既にある来園者の情報を階層分けし、次の戦略へどう繋げていくのかを考えることである。調査結果も同様に、次の戦略へ繋げる方法も検討しておくとよい。

＜**協議案件5：平成28年度運営審議会開催計画について**＞

事務局より平成28年度運営審議会開催計画について説明。

**増田会長**

・リーディング区域はもちろん、コラボレーション区域もエリアをより細分化した上でゾーニングをしていく必要があると考えているが、パーククラブとしてはどうか。

**松井委員**

・パーククラブ内で大まかにエリアを決めてゾーニングを行っているが、その中で実際に活動をしていくと、その場所はどのように使うのかなど、細かな検討事項が後からたくさん出きている。したがって整備を進めていく上でも、明確な考えをもって取り組む必要があると考えている。可能な限り整備エリアを小さくして、具体的な整備ができるように計画を立ててもらいたい。

**増田会長**

・企業の森活動について、12月まで将来像を検討するという計画になっているが、活動に参加してくださる方々がもう少し早く目標が見えるようになるよう、計画を前倒しするとよい。

**前中委員**

・東地区では未だ専門的な植生調査が行われていないため、最初に希少種の有無を調査する必要がある。専門家にアセスメントのような調査を依頼していただきたい。

・アセスメント調査だけではなく、今回の現地確認で発見した人の手が入った痕跡のあるツバキのように、人間生活との関わりの中で発生した植生の有無も調査していただきたい。そうすれば、地域の歴史や特性も踏まえて整備計画を立てることができる。

**増田会長**

・東地区を整備する体制も検討する必要がある。例えばパーククラブで進めていくならば300人ほどの人員が必要になるが、現実的には難しい。第2パーククラブのような団体を作るという方法もある。様々な可能性を考えることができるので、審議会で議論を進めていきたい。

・例えばダイバーシティのようなテーマでパークレンジャー養成講座を開催し、女性の参加を促すことも考えられる。花苗ヤードを拠点として考え、花のアレンジメント講習を入れることもできるかもしれない。重労働だけではなく様々な活動の可能性を考えていただきたい。

**下中委員**

・女性の参加を促すには、花植え活動は効果的である。加えて、御堂筋などに植えられる花苗に大輪会とパーククラブの連名で、公園で育てている様子が都心の人たちにも伝わるようにすれば、公園のPRにも繋がる。

・例えばパーククラブに加えて花苗クラブのようなチームを作り、公園での育成に加えて公園外での植え込み活動にも参加していただけるような方々を募集すると、様々な方々に集まっていただけるかもしれない。

**増田会長**

・郷の棚田プログラムの申込みが埋まらない場合は、花畑プログラムのような形で、植える花を一緒に検討し、アレンジメントも学んでいくような内容を検討するとよいかもしれない。

・花を育てるプログラムも含めて、パークレンジャー養成講座の新しい形を考えることができるならば、提案を作成した上で次回の審議会で議論することができるとよい。

・東地区で植生調査を行う場合は、パーククラブでも年に2回程度の調査講習を行い、現場で調査を学ぶ機会を設けるとよい。

＜**協議案件6：平成28年度工事計画について**＞

事務局より平成28年度工事計画について説明。

**増田会長**

・落石対策について、落石防止ネットを張りめぐらせるような大掛かりな工事ではなく、減災の視点で、事故が起こらない対策を検討するとよい。

**前中委員**

・向井池北側エリアの工事に関して、樹木については長期的な視点を持ちながら進めていただきたい。樹木は大きく成長すればよいというわけではなく、根上りなどを確認しながら工事を進めるべきである。

＜**協議案件7：パーククラブ活動計画について**＞

大家委員より平成28年度パーククラブ活動計画について説明。

**山本委員**

・女性の活動参加について、1月に開催したもちつき体験などの調理を含むイベントの準備は男性だけでは難しく、女性に声をかけて参加していただいたところ精力的に協力してくださり、大変助かった。今後も呼びかけていきたいと考えている。

**大家委員**

・天神川の調査に関しては大阪府と共に行う予定であるが、現時点で内容が不明なため、日程だけを決めている状況である。

**増田会長**

・天神川については、ヒメボタルとゲンジボタルがいると聞いており、陸生と水生の両方を調べる必要がある。公園の近辺でヒメホタルの保存会による勉強会もあるそうなので、参考にしていただきたい。

・1年分の細かな活動計画が立てられているが、多少の振れ幅を持ちながら活動するとよい。

＜**報告案件1：プログラム活動報告（11月～12月）**＞

パーククラブおよび事務局より11～12月に行われたプログラムについて報告。

**増田会長**

・公園で昆虫や野鳥、子どもが遊ぶ様子などの写真コンクールを行うとよいかもしれない。集まった写真をアーカイブし、公園の変化を記録することもできる。簡単な商品を用意してコンクールを開催してもよい。

**前中委員**

・パーククラブの活動報告書には、活動を行った場所を地図等に印だけでもしておくと、どこで活動をしたか誰にとってもわかりやすくなる。＜**報告案件２：企業の森について＞**

事務局より企業の森について報告。

**大西委員**

・現地体験会のしめ縄づくり体験に参加した参加者は、次回の活動参加にも意欲的である。今後は他の部署にも参加していただくほか、他企業にも参加を募っていきたいと考えている。

**増田会長**

・現地体験会でアンケートをとっているならば、その集計結果もわかるとよい。

＜**報告案件３：平成27年度工事について＞**

事務局より平成27年度工事について報告。

**増田会長**

・水辺のデッキは基本的に自由な利用を想定しているが、デッキを活用したプログラムも検討していく必要がある。ボートを使って向井池を観察するプログラムなども考えられる。

**事務局**

・向井池を観察するプログラムについては、水利組合とも調整した上で検討を進めたい。

以上